

特別活動学習指導研究委員会

一 研究テーマ

一人一人が自分の成長を実感し、共に思いや考えを深め合う子どもたちの育成

二 研究の概要

- (1) 研究テーマに即して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、各委員の実践を发表し合い、意見交換を行い、日々の実践に生かせるように取り組む。
- (2) 中塩田小学校で、特別活動の公開授業を行い、委員にも参観してもらい、授業研究会を行う。
- (3) 今年度の活動のまとめを行う。

三 研究の経過

- | | |
|--------------------|--------------------|
| (1) 5月 1日(木) 教育会館 | 総委員会, 委員顔合わせ, 年間計画 |
| (2) 6月10日(火) 中塩田小 | 今年度の活動と実践事例について |
| (3) 7月29日(火) 中塩田小 | 実践事例発表① |
| (4) 8月26日(火) 中塩田小 | 実践事例発表② |
| (5) 10月 1日(水) 中塩田小 | 特別活動研究授業 *委員の参加 |
| (6) 11月25日(火) 教育会館 | 総委員会, 研究のまとめ方 等 |

四 研究の内容

1. 公開授業 中塩田小学校の実践に学ぶ

【特別活動研究テーマ】

一人一人の思いを生かして考えを深められる集団の育成

【議題】

10月のハロウィンパーティーをしよう(第5学年)

学級活動(1)ア 学級や学校における生活上の諸課題の解決

【議題について】

①児童の実態

児童は、活発で積極的に自分の意見を発表する児童や、じっくりと意見を考える児童がいる。ただ、授業などの場面では、前者の児童ばかりが発言してしまうことが多い。そのため、発言に消極的な子の意見は取り上げられにくくなっている。

これまでの学級活動の取り組みでは、当番活動を決めたり、朝の時間にクラスで遊ぶ内
-特活1-

容を決めたりしてきた。当番活動を決める話し合いでは、1学期に行った当番活動から必要なものや不要なものを考え、2学期はどの当番活動をしていくかを考えた。意見を考える時間を取り進めていったため、じっくりと意見を考える児童も意見を固めることができ、話し合いの中でも発言ができた。しかし、話し合いの中で自分の考えと違う意見が出ると、自分の考えばかりを主張する児童がいた。

高学年の評価規準では、楽しく豊かな学級や学校生活をつくるために、他者と協働して取り組むことの意義を理解し、学級全体で合意形成をしていくことが決められている。

以上のことから、教科学習に消極的な子たちが、興味をもった題材の中で、自分の意見が言えたり、みんなから認めてもらえたりする話し合いの場づくりを大切にしたい。また、誰かが主張ばかりして、誰かが納得いかないまま話し合いが終わるのではなく、学級で合意形成がなされる話し合い活動を目指したい。

②議題選定の理由

学級では、クラスみんなが困ることなく生活するための当番活動とは他に、クラスが楽しくなるための係活動を決めている。その中で、お誕生日会やお楽しみ会などクラスが楽しめる活動を行ってきた。各係が出し物をしたり、クラスみんなで遊んだり、誰もが楽しみにし、楽しい会をしたいと考えているものである。そのため、ハロウィンパーティーを考える話し合い活動では、『みんなが楽しめる会』を全員の目標に据えることができ、さらに、どの児童も自分の意見を持って取り組むことができると考えられる。

また、話し合いの中では「ロイロノート」を用いて、意見の「見える化」を話し合いの手立てとして取り入れたい。児童は「ロイロノート」に、自分の意見を書き出す。そうすることにより、ICT機器の画面上に、自分の意見だけではなく、クラスの友だちの意見を見ることができるようになる。そのため、意見を伝えたり知る場面が、自分の意見を発表したり人の意見を聞いたりするだけではなくなる。このことから、話し合いを広げやすくすることができると考えられる。

【第5学年及び第6学年の評価規準】

よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
<p>みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。</p> <p>合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。</p>	<p>楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。</p>	<p>楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。</p>

【事前の活動（本時に至るまでの活動の流れ）】

日 時	児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す児童の姿 （観点）【評価方法】
9月10日 （水） 総合的な 学習の時間	・お楽しみ係がハロウィンパーティーをすることを決める。（お楽しみ係）（学級全員）	・お楽しみ係でどのようなパーティーにしたいか考え、『みんなが楽しめる会』にすることを確認する。	
9月26日 （金） 総合的な 学習の時間	・活動計画を作成する。（提案理由，話し合いのめあて，話し合うこと，決まっていること，ルールの確認） ・学級会の仕方を確認する。（お楽しみ係）	・日時や場所などの条件を，教師が設定をする。 ・お楽しみ係がどのような会にしたいのかが等，提案理由を深めるようにする。	◎ハロウィンパーティーへの見通しを持ち，話し合いが進められるように意欲的に取り組もうとしている。〈学級会ノート〉 【主体的態度】
9月29日 （月） 学級	・「ロイロノート」に自分の考えを記入する。（学級全員）	・『みんなが楽しめる会』にすることを確認する。 ・話し合うことや決まっていることを確認しながら，その上で自分の考えを記入するようにする。	◎友だちの意見を聞いたり取り入れたり認め合おうとしている。〈観察・学級会ノート〉【思考・判断・表現】
9月30日 （火） 学級	・「ロイロノート」に目を通し，書かれた意見を整理する。（お楽しみ係）	・出された意見から話し合いの見通しがもてるように助言する。	

【本時の展開】

(1) 本時のねらい

クラスみんなが楽しんで行うハロウィンパーティーをするために，集会の内容を
考えることができるようにする。

(2) 児童の活動計画

*省略

(3) 教師の指導計画

話し合いの順序	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
1 はじめの言葉	・一人ひとりが自分の意見を持ち話し合い	

<p>2 計画委員の自己紹介</p> <p>3 議題の確認</p> <p>4 提案理由や話合いのめあての確認</p> <p>5 決まっている事の確認</p>	<p>に参加できるよう確認する。</p> <p>・クラスみんなが楽しめる会にすることを確認する。</p> <p>話合いのめあて</p> <p>「クラスみんなが楽しむことができる集会の内容と工夫を考えよう。」</p> <p>・決まっていることを確認する。</p> <p>① 日時…10月31日（金）</p> <p>② 場所…教室</p>	
<p>6 話合い</p> <p>話合うこと① 「何をするか。」</p> <p>話合うこと② 「どことなくふうがで きるか」</p> <p>話合うこと③ 「どんな役割が必要 か」</p>	<p>・司会が進行に困ったときは方向性を示唆する。</p> <p>・自分の意見に固執せず、他の意見と組み合わせたり、いくつもの意見のいいところを取り入れた意見ができたりしないか声をかける。</p>	<p>◎友だちの意見のよさを生かしながら、内容や工夫を考 えることができ ているか。</p> <p>◎みんなが楽しむ ためにはどのよ うなことをする のか発言したり 、友だちの意見 と比べて聞いて いるか。</p> <p>【思考・判断・表現】 〈発言・観察〉</p>
<p>7 決まったことの発表</p> <p>8 話合いの振り返り</p> <p>9 先生のお話</p> <p>10 おわりの言葉</p>	<p>・話合いですべて決まらなくても、どこまで決まっているか確認をする。また、決まっていなかったことがあれば、次の話合いで何を決めるのかを確認する。</p> <p>・振り返りでは、①話し合った内容に対するよかった点。②お楽しみ係へのねぎらい③発言をした子への価値づけや称賛を簡潔に述べる。</p>	

【事後の活動】

日 時	児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す児童の姿（観点）【評価方法】
10月31日 （金）	・係ごとにハロウィンのパーティーの準備をする。	・係は複数名で担当し、協力できるようにする。	◎合意形成したことをもとにみんなで協力し、準備に取り組ん

総合的な 学習の時間		<ul style="list-style-type: none"> ・活動状況を報告し合いながら、意欲の継続を図る。 ・協力したり工夫したりしている児童を称賛する。 	でいる。〈観察〉【主体的態度】
10月31日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ハロウィンパーティー」 ・パーティー終了後、感想を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の態度を振り返るとともに、友だちのよいところについても認められるように助言する。 	◎ハロウィンパーティーの目的を考え、めあてを意識しながら友達と協力して実践している。〈観察・振り返りカード〉【思考・判断・表現】
総合的な 学習の時間			

2. 特別活動実践事例集 委員の実践に学ぶ

*実践事例は『研究のまとめ』の最後に掲載する

【目次】

- 事例Ⅰ 全員が納得する学級会を目指して（本原小）
- 事例Ⅱ 友だちの意見を認め合える学級集団をめざして（傍陽小）
- 事例Ⅲ いろいろな視点からみんなが楽しいを企画しよう（東小）
- 事例Ⅳ 中学校における学級活動のカリキュラムについて（一中）
- 事例Ⅴ デジタルで変わる！児童会の新しいかたち（川辺小）

五 今年度の研究のまとめ

今年度は教育課程研究協議会に代わる授業公開の場として、中塩田小学校で特別活動（学級会）の公開授業を実施した。公開授業には、特別活動委員を招き、5年3組の学級会を参観していただいたり、授業研究会にも参加していただいたりした。

また、定期委員会では学級会や児童会・生徒会活動の実践事例を発表し合い、互いの実践に学び合うことができた。中でも、特にタブレット端末を活用して児童生徒同士で意見交換・情報共有をして考えが深まる効果などについて話し合った。

「全員が納得する学級会を目指して」

上田市立本原小学校

1 はじめに

本校の全校研究テーマは、「考える力・伝える力を伸ばし、学びの喜びを実感できる子ども～対話的に学び合うことを通して～」である。昨年からの変更は、「対話的に学ぶ」が追加されたことである。その達成のために、友だちの意見に耳を傾けることや意見を伝え合うことは大切であると考え。その中で、学級会は、とても重要な役割があるので、今回は学級会の様子をまとめた。

なお、本学級は、今年から担任が変わったが、昨年度から学級会をしてきていた。また、子どもの様子として、発言は多く、意見が出てきやすい反面、意見をまとめていくことが難しいと感じている。

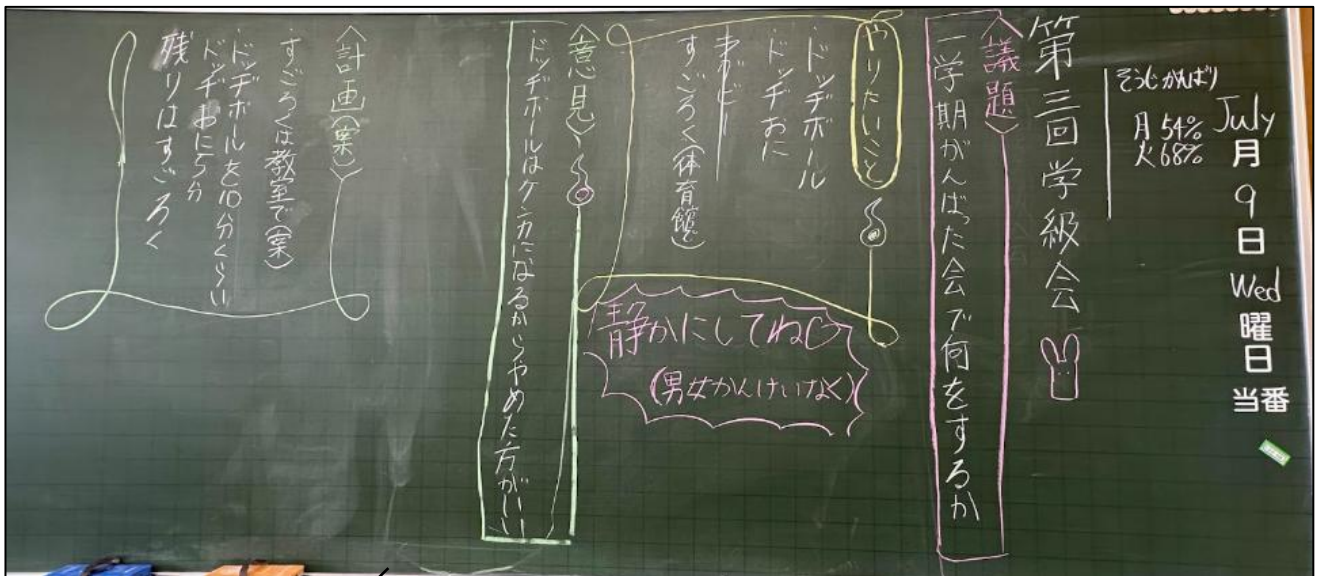
2 内容

1回目の学級会（7月9日）、2回目（7月16日）について

学級会の議題は、「1学期頑張った会で何をするか」で、話し合った。子どもたちの中で、関心が高い議題で、あったので、意見が出やすいのかなと思ったが、みんなで活動するとなると、考えすぎて意見が出にくかった。近くの人やグループごと話し合いの時間を設けたが、あまり意見が出なかった。

そして、ドッチボールという意見が多く支持を得たが、喧嘩になるので避けるべきという意見も多くあったので、決定には至らなかった。

学級会でのまとめ方（合意形成）は、全員納得が原則だと学級長に伝えてあったので、途中で学級長が「何をしたいだけではなく、みんなが納得いく方法を考えてください」という発言があった。しかし、自分たちで方法を見つけることが難しく、時間になってしまった。



1 回目板書

学級会様子



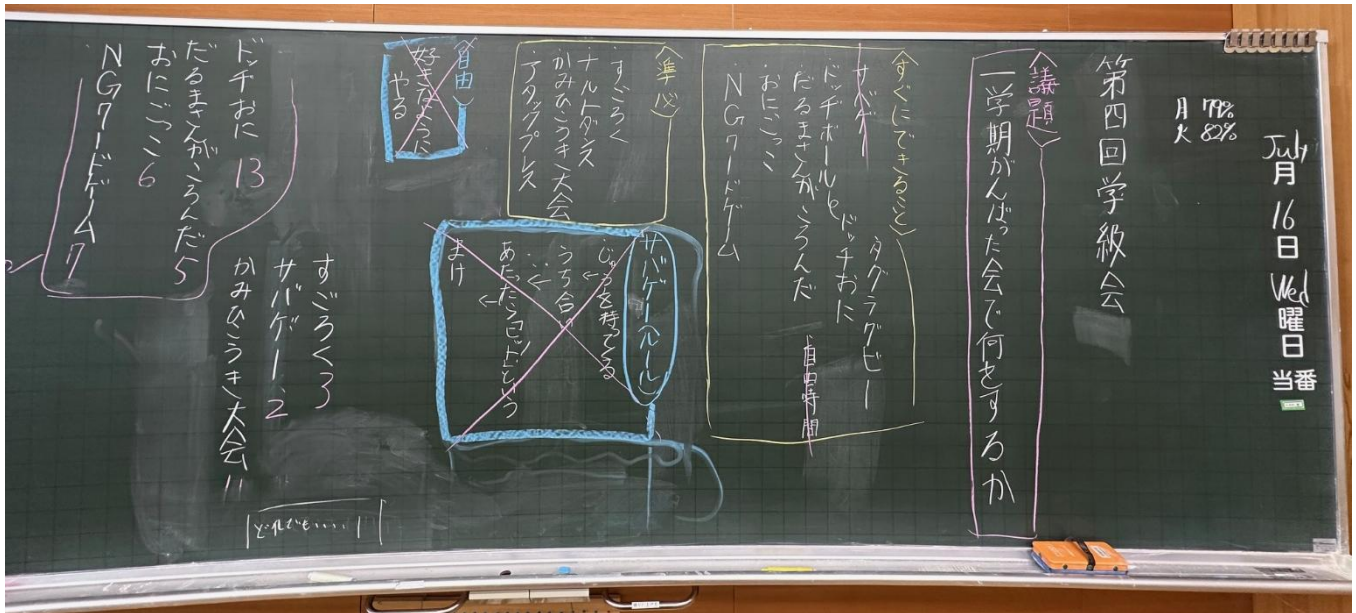
2回目の計画委員会では、自分の考えを持たないで参加していると意見が偏ってしまうことや合意形成の方法が分からないことが挙がった。そこで、「ロイロノートを用いて、1人1人自分の意見を持つこと」と「合意形成の方法を知ること」を追加して、学級会に臨んだ。

成果として、2点あげる。

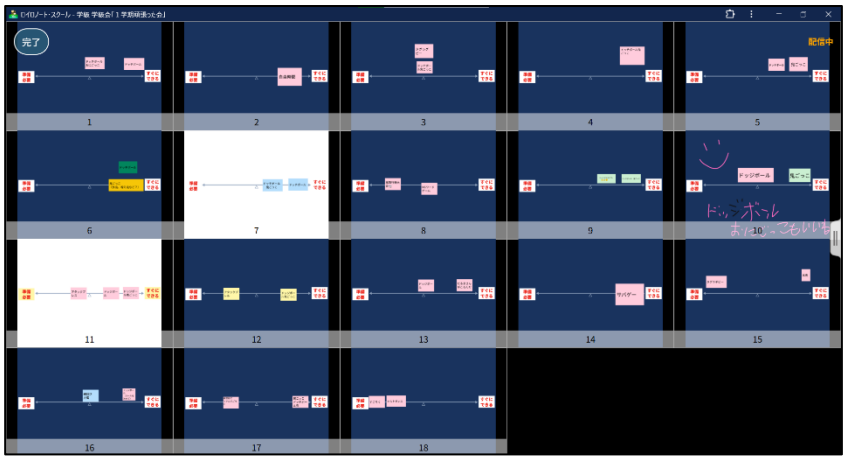
1点目は、ロイロノートを使用し、自分の意見を共有できたことで、発言が苦手な人の意見も可視化できた。また、他の人と比較するのが容易になり、誰がどんなことを考えているかが分かるようになった。そのため、話し合いがスムーズに進んだ。

2点目は、合意形成の方法を知ることによって、全員納得するまとめ方ができた。最終的には、3つの案を合体し、順番に行うことで全員が納得する学級会ができた。

課題として、ロイロノートは、意見を出し比べるのに効果的だが、それに夢中になり、時間がかかりすぎてしまったり、発言が減ってしまったりした。そこは、学級会以外でロイロノートを活用し慣れていながら、ロイロノートの使い方を模索していきたい。



2回目板書



ロイロノート画面

説明した合意形成の方法

- ★多数決はなるべくしたくない。→少数派の意見が通らないから
- 【多数決以外の方法の例】
- ・合体する…複数の意見を合体する
- ・良い所取り…複数の意見の良い所だけ取る
- ・条件を決める…○○な時は、○○。△△だったら、△△。
- ・順番にやる…1回目は、○○。2回目は、△△。

『友だちの意見を認め合える学級集団をめざして』

上田市立傍陽小学校

(1) はじめに

今年度は、人権同和教育の視点から子どもたちの実態をアンケートによって調査したり、職員が感じている課題を話し合ったりする中で全校で共通して「友だちとの人間関係の中に序列を作ろうとする。また、その序列に何の疑いもせずにも自分も参加してしまう。」という課題が見えてきた。そこで、「**学級の全ての友だちの意見に耳を傾け、温かい気持ちで受け止められる学級集団になってほしい。**」と願って学級会を行った。

(2) 内容

議題「海の学習のクラステーマを決めよう」

「海の学習」とは毎年5年生が上越市に行き、海水浴をしたり水族館などの施設を見学したりする宿泊体験学習である。

今回は、しおりの1ページ目にあるクラス目標について「海の学習へ向けて、一番大切なクラス目標を決めよう」と担任から投げかけた。**友だちの意見を認め合える学級集団**にするために担任が考えた手立ては以下の3つである。



①話し合いのポイントを掲示する。

⇒「多数決で決めない＝全員が同じ意見になる」そのために自分と違う意見もよく聞き、違う意見も取り入れながら話し合いを進めるために3つのポイントを掲示した。

1. 全員参加	2. 共感して受け止めよう	3. 見方を変えて考えてみよう
---------	---------------	-----------------

②最後まで子どもだけで話し合う。

⇒子どもの進行により話し合うことで、行き詰まることも出てくるだろう。そんな時に、司会者以外の子どもも共に悩み、解決策を見出す姿が期待できると考えた。

③Padletを使用して話し合いを進める。

⇒Padletを使用することで、挙手して発言しない子の意見も吸い上げることができると考えた。

(3) 成果と課題

①話し合いのポイントを掲示する。

○2つのテーマが出た際に「1」が1人、「2」が11人で意見が分かれたが否定する声は聞こえなかった。1人の立場の子が意見を言うと「確かに…」とつぶやき、1人の意見も聞きながら話し合いが進んだ。それぞれの立場の意見を伝え合う中で、1と2のテーマでそれぞれが大事にしたい言葉がはっきりとしてきた。「2つの足りないところを入れればいいんじゃない？」と意見が出て、2つの意見の大事にしたい部分を合わせた3つ目のテーマが出た。

⇒少数派の意見にも共感しながら、「2つの足りないところを補う別のテーマ」という見方を変えて考えようとする姿へつながった。1人の意見と11人の意見を対等に扱おうとする姿も見られた。

②最後まで子どもだけで話し合う。

○Padlet への記入が終わった後、司会がどのように進めればよいか困り「どうやって決めればよいと思いますか」と尋ねると何人かが決め方を提案し、Padlet 上の付箋をグループ分けして、グループの言葉からテーマを決めることになった。

⇒司会者が進め方に困って意見を求めることで、決め方も学級みんなで決めることができた。

○最終的に2つの意見にしぼられたところで司会者が悩んでいると「どっちがいいかってことと、理由も言っていけばいいんじゃない？」と意見が出た。一通り自分の考えを伝え終わると「2つの足りないところを入れればいいんじゃない？」と意見が出て、2つの意見の大事にしたい部分を合わせた3つ目のテーマが出た。

○3つ目のテーマが出るとクラスから「おお！」「これ、いいじゃん！」「Hさん、すごい！」と声があがった。司会者が「1, 2, 3でどれがいいですか。」と聞くと満場一致で3に決まった。決まった時には「おおー！」「すごい！」というつぶやきとパチパチパチ…と自然に拍手がおきた。

⇒全員が納得するテーマを最後まで話し合いによって決められたことで子どもたちは大きな達成感を感じられた様子だった。1人の意見を大切に話し合いを重ね、満場一致で決められた時の達成感は、今後、少数派の考えや自分とは違う意見も大切にしていこうとする姿につながるだろう。

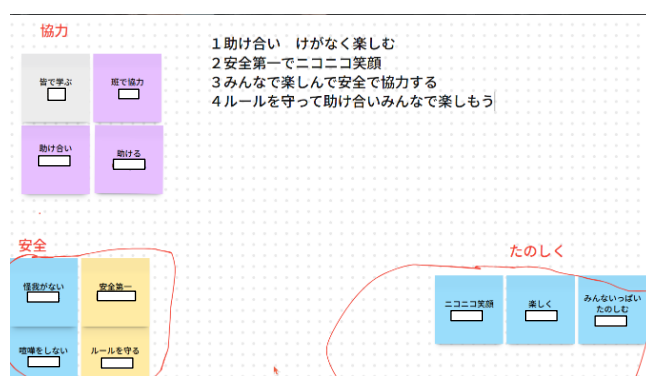
△今回の司会者は、海の学習での班の統率係3名に依頼した。事前打ち合わせでは学級会の当日に担任から一方的に話し合いのやり方についてのおおまかな進め方を伝えただけに留まってしまい、司会者自身にどのように進行するのかを考える時間を十分に確保しなかったため、司会者が悩んでしまい、話し合いが止まる時間ができてしまった。第2時では司会者がどのように進めるかを十分に考えてから進行したため、スムーズに進行できた。司会者との事前打ち合わせ（計画委員会）と学級会の間に司会者が考えたり計画したりする時間を確保する必要がある。

③Padlet を使用して話し合いを進める。

○Padlet 上の付箋をグループ分けしてグループの言葉からテーマを決めることにきまり、司会者が付箋を動かしながら、グループの名前を入力し始めると「〇〇さんのは『楽しく』じゃない？」「ルールを守るってどっちのグループだ？」「『安全』じゃない？」と自然と学級の中から出たつぶやきによってグループに分けられていった。

⇒Padlet を使用することで学級全員の意見を汲み取ることができた。また、Padlet を元にグループ分けを子どもたちの手ですること、自然と話し合う姿へとつながった。

△全員の意見を吸い上げるための Padlet だが、全員が付箋に書くことはできても、その後の話し合いにどうしても参加できない子はある。（司会者に指名されると発言するが…）



『いろいろな視点から、みんなが楽しいを企画しよう』

上田市立東小学校

(1) はじめに

今年度は4年生の担任になり、高学年の入り口に立つ学年として、自分たちで何かを企画、運営をする経験をしてほしいと思った。クラスの子たちは、楽しいことに対する探究心を強く持つ印象があったので、0から何かを立ち上げ、運営できそうだと思います会社活動を提案した。

教師からはいくつか条件やルールを出し、子どもたちの自発的な活動につながるよう促した。

条件① 本校は今年度から、木曜日6時間目はロング学活、金曜日朝の時間はチャレンジタイムを設定しており、どちらも学級の時間になっているため、イベントを実施する際は、その時間もしくは休み時間を使うこと。

条件② 1学期中に必ずどこかの会社に所属する。

条件③ 会社の移動は、まず在籍している会社内で話し合いをし、合意をとる。その後、移動先の会社員と話し合いをし同意を得られたところで正式に移動が決定する。

条件④ 会社の立ち上げルール、

- ① しんせい書を記入する。
- ② 先生チェックをもらう。
- ③ 会社カードを作る。
- ④ 社員ぼしゅうのプリントを作成。教室にけいじする。
- ⑤ 社員が増えるたびに会社カードに記名していく。
- ⑥ 休み時間を使って会社(かいしゃ)会議(かいぎ)を行い、活動計画をたてる。

会社カード
会社名
きぎょうりねん・もくひょう
しごとないよう
社員名簿(しゃいんめいぼ)

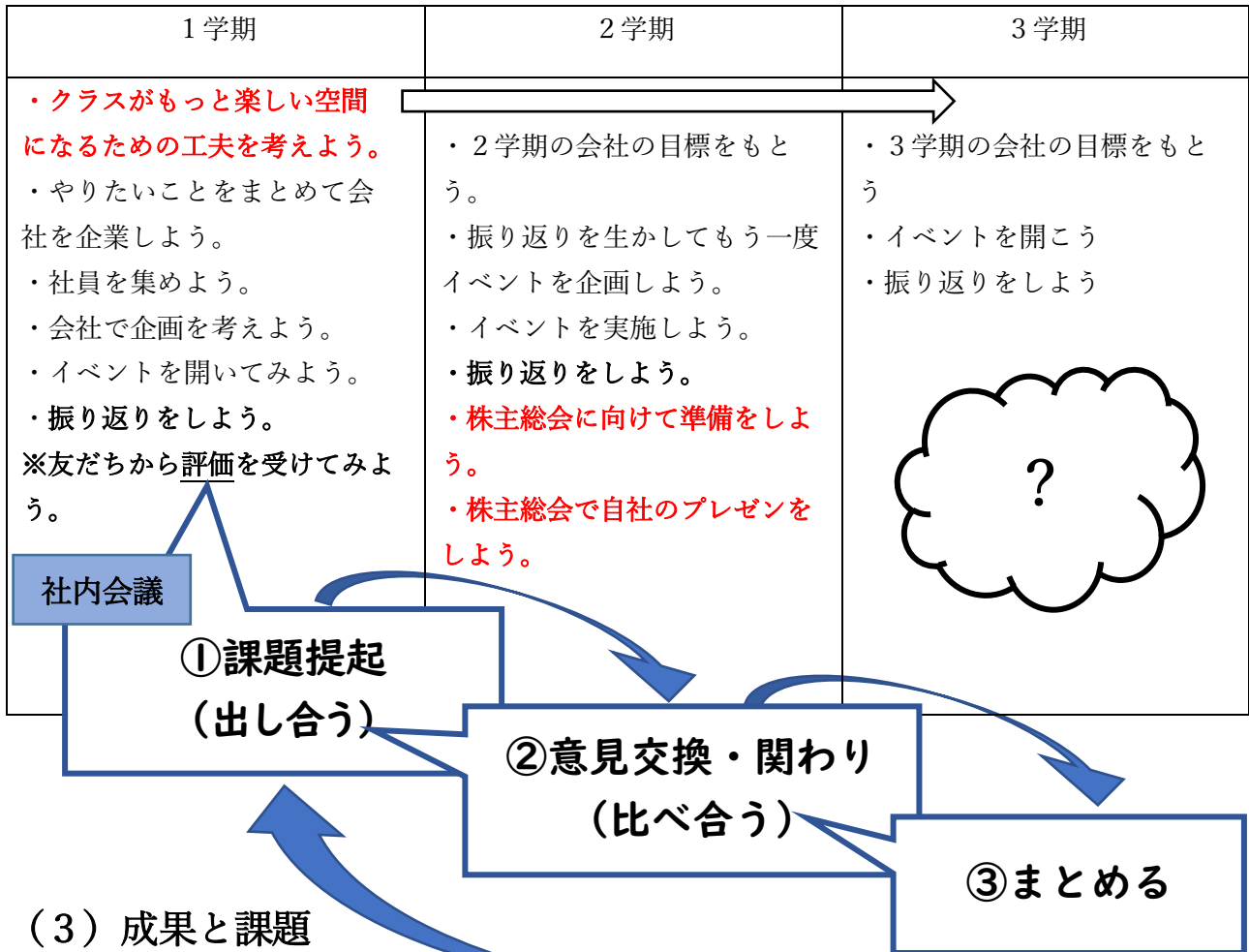
会社設立までの流れ
① しんせい書を記入する。
② 先生チェックをもらう。
③ 会社カードを作る。
④ 社員ぼしゅうのプリントを作成。教室にけいじする。
⑤ 社員が増えるたびに会社カードに記名していく。
⑥ 休み時間を使って会社会議を行い、活動計画をたてる。

おやくそく
・クラスが楽しめることをきかくする!
・自分たちだけが楽しいようなことはきかさない!
・こまったら学級会をひらき、みんなて意見をだし合う!

会社カード
会社名 いろいろしんぶんゆうげん会社
きぎょうりねん・もくひょう 週3回しんぶんを発行する
しごとないよう 週3回おもしろしんぶんをかく
社員名簿(しゃいんめいぼ) さくらいかんた にじろいさな みつぎ かゆん

以上の条件、ルールを意識しながら会社活動を進めるように声をかけた。はじめは条件やルールを出しすぎることに葛藤をしたが、初めての会社活動なので土台作りとして多く、具体的に出した。

(2) 活動の年間計画



(3) 成果と課題

児童の姿より

①おたんじょうび株式会社

友だちに喜んでもらいたい気持ちから誕生日を祝う会社を設立。

黒板アートを作ったり、帰りの会では、ハッピーバースデーをみんなで歌ったりしていた。



せっかく書いた黒板アートを生かしたプレゼントを作って喜んでもらいたいという思いから、Canvaを使って作成。完成後は印刷をしプレゼント。

②うんどう株式会社

体を動かすことの楽しさを知ってもらうため、外でドッジボールや鬼ごっこを企画。イベント終了後は、アンケートを取り今後やってほしいイベントや楽しかったか、つまらなかったか意見を聞き、「みんな」が楽しめるよう会社内で会議を開く。

③イベント株式会社

クラスが祭りのようなイベントでワイワイ楽しんでほしいという願いから設立。



輪投げや射的、たこ焼きを作り祭りを開催。
「祭りっぽさとはなにか」を社内会議で話し合い、役割分担や準備をしていた。

④生き物株式会社

昆虫・生物に興味を持ってもらいたい、昆虫を世話する楽しさを知ってほしいという願いから設立。カナヘビやクワガタを教室で飼育し、休み時間にふれあいイベントを開催した。

なにか生き物を飼う前には、クラスメイトにその生き物の魅力を語り、飼育許可が出ると飼える。というルールをクラス全員で話し合い、決めた。※昆虫を苦手な子がいたため。



第一回ふれあいイベントの参加人数はなんと1人、！
どうしたら参加人数が増えるか社内会議を開き、イベント開催時間の工夫や、告知の仕方など意見を出し合った。

その他、いろいろしんぶん有限会社やボランティア株式会社が設立した。

【成果】

フィードバックとしてイベント開催後にアンケートを取り始めてからは、振り返りが「楽しかった！」ではなく「こういうこともしてみたいって意見がある！ちょっと次に企画してみようよ！」や「そうか、〇〇さん楽しくなかったかあ、。どうことがいいか本人に聞いてみよう！」など相手意識が芽生え始めた。

企画→準備・役割分担→開催→評価・振り返りの形が定着したことで、「みんなが楽しい」という共通のテーマに沿って、休み時間や隙間時間に活発に話し合いが行われた。イベント開催を躊躇するかと思われたが、どの会社も積極的にイベントを開催していた。

何かを開催するたびに、「次はこうしよう。」とそれぞれの会社活動がスパイラル状に展開されはじめた。

【課題】

- ・ イベントをする会社、運動をする会社など体を動かしたり、授業1コマを使ったりする会社が多いため、頻繁にイベントなどを開催することができていない。（各会社多くて月に1回）
- ・ 株主総会も適度に行えればよかったか。
- ・ 教師の出のタイミングがわからず適切なサポートができているかどうか。
- ・ 最終的に3学期のおわりをどのようにまとめればよいか。

中学校における学級活動のカリキュラムについて

上田市立第一中学校

1 はじめに

令和4年度から、上田市立第一中学校では「一人ひとりが伸びる第一中学校」という視点より、生徒の主体的な学びを促す取り組みを進めてきた。特に、毎朝の10分間を「一中タイム」と設定し、生徒自身が学習計画を立て、実行する自己調整力を養う機会として活用している。

研究を進めていく中で、あらゆる教育活動を徐々に生徒に委ねていくこと。さらに、生徒が主体的に将来を見据えて計画・実行できる自己調整力の育成を目指すには、「今の私」からの視点だけでなく「こうありたい私」からの視点も必要だということが見えてきた。

現在、本校における学級活動を中心とした学級・学年単位での教育活動の実情は、テスト前の「質問タイム」「教育相談」以外については、各学年に合わせて毎年変化している。実情に合わせて活用しているという聞こえはいいかもしれないが、学年職員への負担であったり、生徒にとって見通しをもった活動につながらなかったりとマイナスにつながる部分も大きくある。

また、今年度より通知表を*年間2回、定期テストを*年間4回(6、9、11、2)、保護者懇談会を*年間2回(7月(希望者)12月(全員))と変更している。

*3年生については、昨年度までと同様の通知表3回、定期テスト8回、保護者懇談会全員2回のみ

これらのことを踏まえて生徒たちが今までよりも中長期的に自身を振り返り、課題を設定し、見直しをもって解決に向けて取り組むことができるよう自己調整力の育成をし、「一人ひとりが伸びる第一中学校」に向けて、まずは年間の学級活動・総合・道徳など学年単位で動くことが多い部分の枠組みを作成していくことで生徒だけでなく職員も視点を共有し、実践していきたいという願いをもった。

2 活動

① 学校月歴から「学活」「総合」「道徳」の学年ごとの実際に利用方法(活動内容)を記録する。

4月当初より、記録をしていく中で見えてきたこと。

1年 1学期(4月~7月)

学活	26時間	実際29時間	内容:学級開き、宿泊学習、質問タイム、教育相談 など
総合	22時間	実際11時間	内容:交流学习(一日総合)
道徳	13時間	実際9時間	内容:授業
行事	0時間	実際12時間	内容:保健関係、NRT など

この状況からも、実情に合わせて活用していることはよくわかるが、月歴等を生徒に配布しているものの、生徒が見通しをもった活動、自己調整力の育成に向けた活動へはつながりにくいと感じた。

曜	朝の活動	I	II	III	IV	V	VI	行事等	下校時刻
火								■学年始め休み(〜4/3)	
水								■ノーメディアデー	
木								■第7回入学式、1学期始業式	1学期始業式 13:00-15:25
金									
土									
日									
月	学級	総	総	生	生	総		■1学期始業式、入学式、1学期始業式 ■2学期始業式 ■3学期始業式 ■4学期始業式 ■5学期始業式 ■6学期始業式 ■7学期始業式 ■8学期始業式 ■9学期始業式 ■10学期始業式 ■11学期始業式 ■12学期始業式	1学期始業式 13:00-15:25 1学期始業式 13:00-15:25 1学期始業式 13:00-15:25
火	学級・職納	総	総	総	総	学		■1学期始業式 ■2学期始業式 ■3学期始業式 ■4学期始業式 ■5学期始業式 ■6学期始業式 ■7学期始業式 ■8学期始業式 ■9学期始業式 ■10学期始業式 ■11学期始業式 ■12学期始業式	1学期始業式 13:00-15:25 1学期始業式 13:00-15:25
水	一中タイム	12	13	14	15	学		授業開始	15:05 15:05 15:05
木	一中タイム	16	17	18	19	20	生		16:30 16:30 16:30
金	学級生徒会	22	23	24	25	26	道	□3 学年修学旅行結団式	15:30 15:30 15:30
土									18:00 18:00 18:00
日								□3 年修学旅行①	

② 年間における生徒自身の目標設定と振り返りの機会を定期テストと保護者懇談会へとつなげる。

- 4月 キャリアパスポート① 内容：今の自分 中学校生活の目標
- 5月 定期テストに向けて① 内容：定期テストに向けた学習計画と記録
- 6月 キャリアパスポート② 内容：目標に合わせて振り返り
- 7月 保護者懇談会① 内容：キャリアパスポートによる生徒の願いと定期テストの記録
による現状の共有。夏休みの過ごし方について。
- 8月 定期テストに向けて②（夏休み中） 以下は予定
- 10月 前期の振り返り 内容：中学校生活全体の振り返り
キャリアパスポート③ 内容：通知表と合わせて目標設定
- 11月 定期テストに向けて計画③ キャリアパスポート④
- 12月 保護者懇談会② 1月 定期テストに向けて計画④ 2月 後期の振り返り

夏休み明けの生徒の定期テストの計画を見ると、生徒の目標の中で「前回の定期テストの反省を生かし」という言葉が多くあった。さらに夏休みの時間を有効活用し、計画等の詳細を考える生徒もいた。夏休みが前期の中間であり、1学期の振り返りの期間として設定できることを活用する姿が見えたことは成果である。

3 成果と展望

成果

- ・振り返り時期を年間で設定していくことで職員と生徒が1年間の見通しをもつことができる。
- ・保護者との連携について、懇談会で生徒の様子をキャリアパスポートによって可視化できる。

展望

- ・1年間を通して、見通しを共有し次年度へとつなげていく。
- ・全学年の記録をもとに「学活」「総合」「道徳」の年間の枠組みを作成する。

令和8年度 上田市立第一中学校 第1学年 特別活動年間指導計画 案		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学級活動	つねへくりにおへけのる職参をや画活学	ア) 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ) 学級内の組織づくりや役割の自覚 ウ) 学校における多様な集団の生活の向上	テストについて(1)					前期振り返り				後期振り返り		
	康のへ安適と日常己の生活長及学び習働へ	ア) 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成 イ) 男女相互の理解と協力 ウ) 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応 エ) 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 オ) 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成	宿泊学習準備(2)	宿泊学習準備(3)			文化祭合唱(3)							
	どのへ自き3己や一現了人形一成人	ア) 社会生活、職業生活との接点を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 イ) 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 ウ) 主体的な進路の選択と将来設計	キャリアパスポート(1)		キャリアパスポート(1)				キャリアパスポート(1)	キャリアパスポート(1)				
												進路について		

デジタルで変わる！児童会の新しいかたち

上田市立川辺小学校

(1) はじめに

これまでに7回、児童会（生徒会）を担当してきたが、一人一台端末の導入が進むにつれて、児童会活動の形も大きく変わってきているように思う。例えば、委員会で掲示物を一つ作るにしても、これまでは手書きしか選択肢がなく、1つ作成するのに多大な労力をかけていたものが、グラフィックツールを活用することで、誰でもあつという間にハイクオリティの作品が作れてしまう。誰でも簡単に「思い」を形にできるので、発信を通して、児童にとって、より主体的な活動に繋がっていくことが期待できる。裏を返せば、児童の主体的な児童会活動にしていくために、積極的にICTを取り入れていくべきだともいえる。

そこで、本校で昨年度実践した“児童会×ICT”についての実践を紹介する。

(2) 実践内容と成果・課題

①Google フォームによる意見の集約

- 各委員会によるアンケートの実施
- 児童総会の質問意見の募集
- 運動会や音楽会のスローガンの募集 など



○集計も一瞬で行えるので児童の負担を軽減できる。

○これまで行っていた紙のアンケートだとすぐになくしてしまう子がいたが、その対策になる。

また、書くことに抵抗感のある児童の声も拾うことができる。

▲操作に慣れていない低学年に配慮する必要がある。→QRコード化、低学年用の用意で対応

②Google スプレッドシートによる情報共有

- 児童総会の質問意見の振り分けと、回答
- 各種アンケートや記録の集計、図表化
- 児童総会の議案書の共同編集
- 月間予定表の共有（役員・職員向け）
→各クラスには印刷して配付
- デジタルチェック表
→タップするだけで、チェックと集計が同時にできるように。

番号	委員会	実状	チェック
1	花	草むしりカップ	<input checked="" type="checkbox"/>
2	保健	熱中症予防週間	<input checked="" type="checkbox"/>
3	給食	まんぶく大作戦 (1学期)	<input checked="" type="checkbox"/>
4	保健	歯にいいことビンゴ	<input checked="" type="checkbox"/>
5	体育	学年マッチ	<input checked="" type="checkbox"/>
6	代表	まろうっピンゴ	<input type="checkbox"/>
7	総務	なぞとさりー	<input type="checkbox"/>
8	保健	病気予防週間	<input checked="" type="checkbox"/>
9	代表	あいさつランキング	<input checked="" type="checkbox"/>
10	保健	歯と口の健康週間	<input checked="" type="checkbox"/>
11	給食	まんぶく大作戦 (音楽会)	<input checked="" type="checkbox"/>
12	放送	放送体験会 (泰山輪多賞)	<input type="checkbox"/>
13	環境整備	ポスター探し	<input type="checkbox"/>
14	保健	ハンカチ・ティッシュ週間	<input checked="" type="checkbox"/>
15	給食	まんぶく大作戦 (2学期)	<input checked="" type="checkbox"/>
16	体育	マラソン大会	<input checked="" type="checkbox"/>
17	給食	残食0チャレンジ	<input checked="" type="checkbox"/>
18	花	フラワーquizラリー	<input checked="" type="checkbox"/>
19	体育	クラスマッチ	<input checked="" type="checkbox"/>
20			
計 15 枚			

総務	役員	保健	給食	体育	環境整備	花
【活動計画】が年・クラス編成なく、みんながわかり合える学校にしよう！						
4月	〃	〃	〃	〃	〃	〃
5月	〃	〃	〃	〃	〃	〃
6月	〃	〃	〃	〃	〃	〃
7月	〃	〃	〃	〃	〃	〃
8・9月	〃	〃	〃	〃	〃	〃
10月	〃	〃	〃	〃	〃	〃
11月	〃	〃	〃	〃	〃	〃
12月	〃	〃	〃	〃	〃	〃
1月	〃	〃	〃	〃	〃	〃
2月	〃	〃	〃	〃	〃	〃

令和6年度 仲よし会 月間予定表【11月】						
日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1	2
※	※	※	※	※	※	※
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24・31	25	26	27	28	29	30

1	A	B	C	D	E	F
1	クラス	名前	委員会	種類	内容	委員長からの回答
2	5-3	鬼澤柚衣	総務	意見	総務？かどうかはわからないけど、「イラストコンテスト」をまたやってほしいです。	ご意見ありがとうございます。イラストコンクールは令和5年度までは行っていたが、何のためにやっているのか、目的がはっきりしていなかったため、今年度は環境整備委員会の「そらじ posterコンクール」に置き換えました。
3	5-3	赤岡 聖之介	総務	意見	イラストコンクールを再開したいと思う	上と同じです。
4	5-3	栗原幸大	総務	意見	もったくさんイベントをやしてほしい	ご意見ありがとうございます。複数の委員会でイベントが重なってしまうと、混乱させてしまう恐れがあるので、今年度の仲よし会では活動を精選して、イベントは各委員会4つ+特別活動のイベントと決めていました。また、たくさんやればよいというわけでもないと思うので、一つ一つのイベントの目的を大切に、意味のある活動に絞っています。
5	5-3	両角由希	総務	質問	なし	上と同じです。
6	6-1	金井菜葉	総務	意見	寄せの未で、本の総が書いてある構造紙が三枚もあってみなさんが好きな場所に貼って貼って貼ってあまり木みたいにならなかったで構造紙を三枚→二枚にしてみようでしょうか？	ご意見ありがとうございます。2枚に減らすことを検討したいと思います。
7	6-2	清水結愛	総務	意見	仲よし会表彰式で表彰されるために、各委員会のイベントに積極的に参加してくれたから来年もやってほしい。	ご意見ありがとうございます。全校のみなさんも賞状を目標に仲よし会イベントに積極的に参加してきてくれたので、来年度の総務に引き継ぎたいと思います。
8	6-2	横田琉生	総務	意見	なぞとさりーをやると1年生とも感情を深めたりできるので続けてほしいと思います。	ご意見ありがとうございます。内容も変更して、来年度の総務に引き継ぎたいと思います。
9	6-2	眞砂蓮	総務	意見	謎解きラリーは一年との中を深められるので来年もやってほしいです。	上と同じです。

- 情報共有が容易。児童間はもちろん、担当も常に進捗を確認できる。
- 共同編集ができるので、分担すれば、各々のタイミングでいつでも編集可能。
- ▲スプレッドシートの操作に慣れるまでに時間がかかる。(改行は alt+enter など)

③グラフィックツール (Canva) を使った **掲示物やプレゼンづくり**

- ・児童会通信の作成
- ・全校集会用プレゼンの作成
- ・ポスターの作成
- ・企画の説明
- ・引き継ぎ資料の作成
- ・本の読み聞かせ などなど… (児童のアイデア次第で)

きょう はな
今日話すこと

- 1、ろう下歩行について
- 2、なんでろう下をはしっちゃんいけないの？
- 3、動画を見てみよう！
- 4、まとめ

運動会の読み聞かせ

仲よし会通信
6月号

運動会、大成功でしたね！おつかれさまでした！仲よし会では6月も様々な企画を用意しています。今年の活動の目玉企画、放送委員会の「川辺小ラジオ」が毎日お昼の放送で流れていますね。まだ始まったばかりで、若干、出演者が固くなってしまったり、笑って聞き辛くなってしまったりしてしまっているかもしれませんが、少しずつ改良を加えて、もっと柔らかく身近なラジオになったら良いと思っています。そして「川辺小ラジオ」を中心に、お昼の放送を「連絡的な放送」だけでなく「楽しい放送」にしていきたいと思っています。

今月のイベント

川辺カラフルウィーク ⇒今年、花だんのデザインを全校の皆さんから募集します！あなたの案が選ばれるかも！？	川辺小ラジオ ⇒お昼の放送で毎日ラジオを行います。テーマにそって話すテーマトーク等をお届けします。
歯に良いことビンゴ大会 ⇒歯に良いことを1日2つ紹介し、それを使ってビンゴを目指します！賞状あります！	ライブラリー-学年便り ⇒本や図書館に関するアンケートを取ってその結果をお便りにします。
縦割り清掃 ⇒友遊学級のクラスのところに一緒に掃除をしに行き、仲を深める活動です。	学年マツチ ⇒5月に集め、決めた競技を学年マツチにします。1位目指してがんばろう！

期間は11月11日～11月22日です。

給食委員会
詩・俳句コンクール

☆詩・俳句コンクールの説明 1・2年生

- ・詩・俳句コンクールとは、全校の皆さんから給食の詩、俳句を集め、その中で上位の10人に賞状を配ったり、放送で発表する活動です。
- ・名前と学年、クラスをしっかりと書いて、最初の5文字を考えて、自分のオリジナルの作品を作ってください。
- みんなで食べると おいしいな
- ・この上の○に入る言葉を考えてください

この活動は、給食というものに親しんでもらうためや残食を少しでも減らせるようにする活動です。

たくさんのすてきな作品 待ってます！

イベント企画するときのポイント

- ・イベントを企画する時は、イベントの目的が1年間の活動目標に沿っているかが大事！

例えば...「自然あふれる学校へ」だったらイベントは花壇をデザインするようなイベントだったり、花の写真と一緒に説明を書いたポスターを校舎内に貼ったりするなど..

- ・イベントの準備は、企画している期間の前の仲よし会で準備したり、3役で休み時間にやる。
- 間に合わなくて仕方ないときは臨時委員会を使ってもOK!

臨時委員会するときには必ず放送でよびかけよう！臨時委員会はできるだけ頻度少なめで！

- 誰でも簡単にハイクオリティな掲示物を作成することができる。
- 児童のアイデア次第で、使い方がどんどん広がっていく。主体性◎
- 共有やチェック、印刷が容易。また、保存できるので、そのまま引き継ぎ資料に。
- ▲ある程度、児童のICT活用のレベルが上がっていることが必要。

(3) まとめ

もちろん、活動の意義を共有することや、綿密な計画を立てることなど、他の手だてによるものもあるが、ICT活用が児童の主体性を非常に高めてくれたと感じている。はじめは「こんな風に使ってみたらどうかな？」と提案することから始めたが、自分たちでどんどん活用の幅を広げていき、最終的には私も思いつかないような活用方法を見出していた。大事なものは、**児童が自分で使い方を考えて活用の幅を広げていく**ことであると思う。本事例は、これまでも積極的に授業や日常生活でICTに触れてきた子どもたちの活動の様子であるため、6年生までに、やはりある程度のレベルに達していることが必要だ。そのためどんな指導が求められるのかを考えたい。